

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】令和 4 年 2 月 25 日(2022.2.25)

【公開番号】特開 2020-146025(P2020-146025A)

【公開日】令和 2 年 9 月 17 日(2020.9.17)

【年通号数】公開・登録公報 2020-038

【出願番号】特願 2019-75142(P2019-75142)

【国際特許分類】

A 0 1 K 8 9 / 0 1 7 (2 0 0 6 . 0 1)

10

【 F I 】

A 0 1 K 8 9 / 0 1 7

【手続補正書】

【提出日】令和 4 年 2 月 16 日(2022.2.16)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

20

【 0 0 0 7 】

また、本発明の一態様は、上記のスプール駆動制御装置であって、前記回転状態再現パラメータは、前記スプールの回転速度であり、前記継続時間パラメータは、前記回転状態再現パラメータが示す回転速度で前記スプールを継続して回転駆動させる時間であってよい。

上記構成によれば、回転状態再現パラメータが示す回転速度により継続時間パラメータが示す継続時間でスプールを回転させ、1つの継続時間と次の継続時間の間において、停止時間パラメータが示す停止時間にわたってスプールの回転を停止させることで、ユーザの意図に沿ったスプールの回転速度の変化が得られる。

【手続補正 2】

30

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 4 3 】

その一方で、第 2 自動さそい動作では、以下のような事象が生じる可能性がある。例えば学習モードにおいて、ユーザは、或るタイミングでスプールの回転速度に急峻な変化を与えるようにしてさそい操作を行った。しかしながら、第 2 自動さそい動作における学習では、あくまでも単位時間におけるスプール回転数として検出される。この場合、単位時間における急峻な回転速度の変化は、スプール回転数として平滑化されてしまうことになる。

40

このため、第 2 自動さそい動作のもとでは、学習モードにおいてユーザがスプール 3 の回転速度について急峻な変化を与えることを意図して操作を行ったとしても、さそい動作を実行させた際には、さほど急峻な変化を生じないという結果が生じ得る。この場合、実際に生じるスプール 3 の挙動（即ち、さそいの動き）がユーザの意図と異なっていることになる。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 8 7

【補正方法】変更

50

【補正の内容】

【 0 0 8 7 】

ステップ S 2 0 2 : ステップ S 2 0 1 により第 1 自動さそい動作対応の学習モードが設定されたことに応じて、パラメータ設定部 1 3 1 は、スプール 3 の回転速度の記録を開始する。

つまり、第 1 自動さそい動作対応の学習モードの設定中において、ユーザは、さそい操作として、ハンドル 2 0 またはスプール駆動レバー 2 8 を操作して、スプール 3 の回転、スプール 3 の回転停止、スプール 3 を回転させている状態での回転速度の変更などを適宜行っていく。このようなさそい操作により、学習モードにおけるスプール 3 の回転速度は時間経過に応じて変化する。ステップ S 2 0 2 以降において、学習モードにおける時間経過に応じたスプール 3 の回転速度を検出し、検出された回転速度を記録する。

10

20

30

40

50